

## 1 直近の活動

10月1日(土)中部本部・金属部会交流会 21名の参加者

10月2日(日)近畿本部・金属部会交流会 15名の参加者

10月9日(日)幹事会

10月16日(日)「脱炭素社会」勉強会第5回目 24名の参加者

10月23日(日)金属部会定例部会CPD講演者説明会 12名の参加者

10月28日(金)近畿機械システム部会 大盛況。機械部会長に挨拶

10月29日(土)日本技術会全国大会 大盛況。本大会600名超え。懇親会280名。

10月31日(日)近畿支部・三部会合同部会 午前中12名の金属部会交流会。午後50名の交流会。

10月は地域交流・他部会交流(化学・繊維・原子力)・全国大会の月であった。

## 2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

11月6日(日)幹事会

11月20日(日)「脱炭素社会」勉強会第6回目

11月27日(日)定例部会技術講演会

## 3 部会四方山

▶言葉は、人を動かしても、また傷つけたりする。幹事会で和鐵が書いた「地方巡業」という言葉は、思わぬところで人を傷つけてしまった。以前いた会社で当たり前のように使っていたので、何気なく書いてしまったが、本当に言葉は難しい。言葉を生業にしてもまだまだ失敗が多い。▶以前の本で、周期表の説明に、縦列の「\*\*族」をある部族の集会に見立てて文章を書いたら、えらい剣幕で編集者から怒られた。「こんな差別用語を使うなんてあり得ない」「じゃあ、どう書けばいいんでしょうか」「先住民族の皆さんのあつまり、です」「・・・文章、替えます」▶言葉はともかく、10月30日午前中の金属部会の集会で発言した内容はこうだ。「地方交流といっても、まだ中部と近畿しか訪問できていない。北陸も、昨日の懇親会の席上で隣が北陸支部の役員の人だったこともあり、ぜひ来てくれと言われた。九州にもいきたい。中国も広島には人数が固まっている。昨日の懇親会の右隣は東北本部、その向こうは北海道本部のひとだった。東北や北海道にも金属部会のメンバがいる。お会いしたい。▶また、各地に名誉会員の先生が全部で14人もいる。先達の皆さんのお話も聞きたい。さらに、部会には修習技術士が54名もいる。この人たちが1日も早く仲間になっていただくお手伝いをしたい。やりたいことだらけだ。▶もちろんこんなにたくさんしゃべれなかったのが、半分くらいは、心のなかでつぶやいたのだが、心底そう思っている。金属部会は、まだまだ活発に活動できる。そういう活動が部会員の皆さんのお役にたてると信じている。年に一度の大会にでると心も体もハイになる。

## 4 和鐵管見 14

▶10月の様々な交流会は、改めて技術士・技術士会のあり方を考える良い機会になった。また、この数年間のコロナによる鬱々とした蟄居の日々が終わる実感を味わった月でもあった。▶コロ

ナ禍がもたらした負の影響は枚挙にいとまない。逆にオンライン会議やオンライン部会・セミナーなど、これまで考えられても実行できなかった形態のミーティングが一気に定着するなど、将来につながる新たな手段が確立した期間でもあった。▶隔離の日々を過ごし、オンラインの利便性に慣れると、わざわざリアルで人と会う必要性を感じなくなる人もでてきているのではないだろうか。「わざわざ交通費を払って、コロナに罹りに行くこともないし」「外にでるのは服装も整えなければならないし、限られた時間のために1日『無駄』にすることもないし」「基礎疾患がある私は、万一のことを考えると外には行きません」▶オンラインでの会話とリアルの会話の違いは、想像以上に大きい。リアルに出会って会話するということがダサくて、古い行動であり、オンライン越しであれば清潔……▶これらの感情、考え方は、技術者倫理のモラルの項目の第二項『自己欺瞞』に相当するものかもしれない。ある行動を行わない場合、その行動を行わない理由を次々と作り出す状態をいう。▶これは部会の皆さんに向かっていっているのではなく、自分への自戒を込めて書いている。2020年、2021年、2022年の6月まで、和鐵は自宅警備員に徹していた。テレワークとオンラインの技術士会行事とだけでも、PCに向かっていれば時間のかなりの部分を消費できた。そして自分に「仕事をしているんだ。技術士会に、部会に貢献しているんだ」という言い聞かせていた。「コロナだもんな」むしろリアルに動き回る人を見て、「なんて危ない橋を渡っているんだ」と考えたものだ。▶考えが変わってきたのは、6月。大阪でのリアルのセミナー講師をするために久々の遠出をし、それを機会に近畿本部所属の金属部会の皆さんとリアル交流をした。知り合いが教授をしている大阪の大学の研究室にでかけた。編集者と喫茶店で打ち合わせを重ねた。こういうことをしているうちに、数年間の外出ブランクが一気に埋まり始めた。▶間違いなく、私たちは生身の人との交流を欲している。もちろんオンラインも交流の一手段であり、距離や時間の制約を解消する手段ではある。会合にこれまで知り合うこともなかったような人が参加してくれているのは本当にありがたいことだ。これはオンラインでの会合のおかげだ。▶正直、今回の全国大会で近畿本部がリアル会合にこだわることに、最初は違和感があった。ZOOM配信をしない会合をするという方針にも心中はいささか穏やかではなかった。しかし、昨日、考古学研究所の研究員の1時間半の講演を目の前で拝聴し、3人のパネラーが一人20分のプレゼンをもものすごい勢いで行うのを横で見ていると、そして会場で丁々発止のやりとりをしているのを目の当たりにすると、その場所に集うことの大切さを改めて認識した次第である。▶金属部会の定例部会は7月以降、ZOOMと機械振興会館の会場で会合を行っている。部会員は、遠方や体調などに応じてZOOMで参加でき、気が向いたら会場に集う。こういう体制でリアルでお会いできる方々をお待ちしている。古いかもしれないが、会って話すことの重要性が身に染みている今日この頃だ。